



K-FACTORY CLR マフラーの**秘密**

CLR マフラーは世界で K-FACTORY だけの商品です。
美しく、図太いエキパイのライン。迫力のサウンド。爆発的な加速感。
集合マフラー全盛の時代、憧れのレーシングマシンに装着されていた
マフラーの全貌を最新の技術で制作しました。
なぜ、このマフラーが世界で唯一なのか
これから、その秘密を解き明かして行きます。

ZEPHYR1100
CLR Full Exhaust system



スムーズな排気を促す 43φチタンエキゾーストパイプから集合部を経て、こだわりの60.5φチタンテールパイプへとつながる美しくも力強いライン。はやりの焼き色や磨きの入ったパイプとはひと味違った、素のチタンパイプが放つゴリゴリとした迫力。そのすべてが時代を逆行したかのような要素で構成された、採算度外視のマニアックな逸品です。また、装着にはオイルパンの交換が必要なのですが、当社製 ZEPHYR1100 用のビレットオイルパンキットを装着することで、冷却効果を高めるフィン形状とオイルフィルターの凸部が無い外觀がクールなシルエットを演出。さらに性能面では、別売りのオプションバイパスキットを装着することで、#3・#4のクランクメタルへダイレクトにオイルを回し、クランク周りへの確実な油膜保持をうながします。

秘密その1

なぜ、CLR マフラーは世界で唯一のマフラーなのか？

マニアなら見たただけでお気づきでしょうが、CLR マフラーの美しい曲線には焼き色が付いていません。手曲げではなく機械で曲げているからです。従来の機械曲げは2次元でしか曲げられないうえに、曲げる場所の両端を固定しなければならぬため、パイプに直線部分が必ず必要になります。CLR マフラーのような美しい連続曲線は、当社で使用しているような3Dベンダーなしでは曲げられないのです。もちろん3Dベンダーでマフラー制作しているのは当社だけという訳ではありません。ただ、60.5φもの超極太チタンパイプを3Dで曲げているメーカーが当社以外存在しないだけなのです。

では、なぜ他のメーカーは作らないのか？答えは簡単です。「割が合わないから」です。機械で曲げるのだからすぐにでもできそうですが、これがなかなか難しい。そもそも現在、これだけの太さのパイプをバーナーで炙ってきれいに曲げれる職人が何人いるのでしょうか？その卓越した技術を数値に置き換えるのですから、それはもう気の遠くなるような作業の繰り返しです。そう！CLRマフラーは「どうしても往年の集合管を3Dチタンで作りたい！」という、職人のこだわりと意地の結晶なのです。



厳密に言えばパイプに熱を加えると必ず酸化して強度が落ちてしまいます。そういう意味では強度的にも【CLR】は優れていると言えます。

一世を風靡した色鮮やかなクワトロシリーズと比べてもらえれば、【CLR マフラー】バージンチタンカラーのもつ図太い迫力が解ってもらえると思います。

秘密その2

焼き色のマフラーイメージがあるケイファクトリーがなぜバージンチタンカラーのマフラーなのか？

まず、最近のマフラーは機械で曲げたパイプを見た目をカッコ良く見せるためにバーナーで炙って焼き色を付けているのが大半です。いわゆる手曲げ風なのでしょう。もともと当社のクワトロシリーズがきっかけとなったこの色付きマフラーですが、本来 3D ベンダーで曲げたパイプが元に戻ろうとする応力を抜くために、熱を加えたのが始まりなのです。

それではなぜ、【CLR マフラー】はバージンチタンカラーが可能なのか？ それは、クワトロシリーズから始まりディアブロシリーズ、FRC シリーズと 3D ベンダーで数えきれないぐらいのパイプを曲げてきたデータの蓄積により、完全に応力を克服することに成功しているからです。

まあ、それ以前にチタンの持つ素の感触や雰囲気やネイキッドのバイクに、また【CLR マフラー】が一番マッチするから選んでいる訳ですが…。

「手曲げのラインに素のチタン色」このギャップが良いのです。それに我々がバージンチタンカラーと名付けたのは「CLR をあなた色に染めてください」とのメッセージを込めてのことなのです。



CLR アルミサイレンサー
ソフトで暖かみのある音
が特長です。



GP サイレンサー SS2
チタン製。ハードで音
量大きめです。



高い溶接技術が必要とする、
曲面どおしを組合わせて作ら
れた集合部分。



内部隔壁を持たない往年のシ
ンプルな 4-1 構造の集合部。
これが胸の透くようなサウン
ドと出力特性を生み出す。

秘密その3

サウンドとパワー特性にもこだわりの秘密。

やっぱり気になるのはサウンドの**はず**。ケイファクトリーといえば**低回転域の重低音**がウリ！ もちろん【CLR】もしっかり受け継いでいます。しかも集合部が内部隔壁を持たないガチの4-1仕様で、**高回転のヌケが抜群！**とにかく**気持ちのいい高回転サウンド**になっています。さらにアルミのロングサイレンサーの柔らかいサウンドとベリーショートなチタン製 GP サイレンサーのハードなサウンドが好みに合わせて選べるというこだわり。

また、肝心のパワー特性は、近年主流になっているノーマルのパワーカーブに少しだけ上乘せしたような優等生とは大違い！「**中速トルクを犠牲にしても高回転にかける！**」これぞ**4-1**という**パワー特性**です。『中速トルクを犠牲にしている』といっても、昨今の**大排気量車のトルクは、はっきり言って持て余し気味**なので気にするほどではないと言っておきます。それよりも**4in1 全盛の頃のどこまでものびて行くような高回転域**をお楽しみください。**【CLR】はそのために作られたマフラー**ですから…。

3D ベンダーメーカーでさえ、チタンを曲げたことがなかった 2000 年、そのチャレンジは始まりました。

薄くて固いチタンパイプは曲げると割れたり、しわが寄ったりと、大変デリケートな素材です。

ケイファクトリーは、そんなチタンパイプで 10 年間、当初の夢だった「**金属の大敵である酸化がなく、真円を保ち、曲げても外側が薄くならず均一の厚さのまま、誰が何本造っても全く同じ品質の美しいマフラー**」を作り続けてきました。

その膨大なデータの集大成がこの【CLR】マフラーなのです。



秘密その 4

そもそも【CLR】マフラーを制作している 3D ベンダーってどんな機械？

説明にも登場した 3D ベンダーですが、一本のパイプを型から押出す方向と速度を変えて、あらゆる角度にパイプを曲げる機械です。

この機械、構造がシンプルだけにデータの打ち込みもいたってアナログ感覚！**手曲げの時と力の加え具合や方向を決める感覚が極めて近い**のです。

手曲げでは、曲げたい場所の手前から徐々に曲げて行って初めて思った場所で曲がる?! 大型旅客機のシュミレータさながらのタイムラグみたいなものが存在するという事です。同じようにこの差が、3D ベンダーでパイプを曲げるときにも存在するのです。

このことはすなわち、**手曲げができない人にはデータを作れない**ということです。それプラス、パイプをイメージ通り曲げるには、手曲げの力の入れ具合、方向、タイミングを(3D ベンダーでは熱は加えませんが、もちろん手曲げでの熱のコントロールも!!)数値化するセンスが最低限必要ということです。

でも経験上一番大事なのは、**たゆまぬ試行錯誤とできるまであきらめないひつこさ?!**いや職人氣質だと言い切れます!